

令和7年度 学校評価一覧表② (様式2) 太田市立太田中学校

		羅 針 盤		自己評価 (総合)	学校関係 者評価	学校関係者評価委員の意見	今後に向けての学校の考え
評価項目	具体的数値項目						
I 保護者との連携	学校と保護者との情報共有	学校の様子をおおよそ把握していると答える保護者が85%以上である。	A	A	・生徒が生き生きと生活しているからこそその結果だと考えます。	学校からの情報を発信するだけでなく、保護者からの意見、感想を聞く場の設定を考え、今後も保護者の理解をさらに深めていく。	
	学校と家庭の信頼関係づくり	子供を共に支える関係ができていてと答える保護者が85%以上である。	A	A	・生徒が生き生きと生活しているからこそその結果だと考えます。	今後も、保護者との連絡を密にし、生徒の日々の様子や小さな成長を伝えたり、良いところを伝えたりして、学校と家庭で子どもを支えられるようにする。	
II 確かな知性	「主体的・対話的で深い学び」の実現	授業中、自分で考えたことを伝えたり、友達との話し合いをしたりしていると答える生徒が85%以上である。	A	A		他者と考えを伝え合ったりアウトプットしたりしたことを、生徒に振り返らせたり、学習の様子をブログで発信したりすることで、主体的・対話的で深い学びのよさをさらにメタ認知できると考える。	
	ICT機器の活用	授業や家庭学習でICT機器を有効に使っていると答える生徒が85%以上である。	A	A	・「話す」「書く」をどれだけ質高くやっていくことができるかが重要だと思います。その際、ICTは使わないと長い文字など苦しくなりますね。「アウトプット」と「インプット」ICTの出番ですね。	授業中の活用はとても進んでいる。家庭学習でも活用できるよう、授業と家庭学習の連携を視野において、手立てを講じていく。	
	家庭学習や読書への取り組み	家庭で学習に進んで取り組んでいる（読書や塾の時間も含む）と答える生徒が85%以上である。	C	B	・どこの学校でも、これは課題となっている。ただ、太田中は内部進学のため受検がないことも起因としてあるのではないだろうか。せっかく中高一貫校のメリハリを生かせるよう、中3で高1の学習を始めるなどのカリキュラムにすればやらざるを得なくなるのでは。 ・中学校での家庭学習の習慣化が将来への良い足掛かりになりそうですね。	学校全体として継続して本課題に取り組むために、対策チームを設けて、家庭学習を含めた学力向上について取り組んでいく。フォーサイトの活用が、学校全体として停滞しているため、自分の努力が評価されて励みになるような工夫や実施の内容のチェックをしていく。	
III 豊かな人間性	学校生活の充実	自分達で企画したり、運営したりする行事を通して、達成感や充実感を味わっていると答える生徒が90%以上である。	A	A	・土台となるものなので、増やしていきたい取組です。	本校は多彩な学校行事が魅力の一つである。教職員や生徒はその準備に多くの時間を費やすことになる。達成感や満足感を維持しつつ、取り組み方を見直すことも急務である。	
	感動する心や他人と協調し思いやる心の育成	福祉体験、自然体験、宿泊体験など様々な体験を通して、感動を味わったり、仲間と協調する大切さを味わっていると答える生徒が90%以上である。	A	A		今後も学校行事や日々の学習活動の中で、仲間と協働して取り組む姿勢を意識させたい。仲間を自然と思いやり、手を取り合うことができる生徒の育成を目指す。	
	道徳的判断力、心情、実践意欲と態度の育成	道徳の授業の中で、様々なテーマについて考えたり友達の意見を聴いたりすることで、自分の生活を振り返り、今後の自分の行動について深く考えるようにしていると答える生徒が85%以上である。	A	A		価値項目に沿って、どれだけ自分自身と向き合っていけるかが大切になっていくため、そのための振り返る時間をしっかり取り、自分事として考えていけよう、工夫していく。	
IV たくましい心身	健やかな体づくり	バランスのよい食事と適度な運動、睡眠時間の確保を意識し、健やかな体づくりに努めていると答える生徒が85%以上である。	A	A		生活習慣を見直すように、あるばや長期休業中の生活振り返りシートを実施すると共に、フォーサイトを活用して生活習慣を見直すようにしていく。また、フォーサイトに起床・就寝時間や運動、食事時間等記入をすることで、勉強時間だけでなく、生活習慣を振り返れるようにする。	
	相談体制の充実	不安や悩みごとができたとき、相談できる相手がいたり、対処の仕方が分かると答える生徒が85%以上である。	A	B		12%程度の生徒が不安や悩みごとを相談できずにいる。声がけとともに、生活アンケートやフォームでの悩み相談窓口を積極的に活用することで、早期発見・早期解決に努める。	
	部活動を通じた健全な心身の育成（校外のクラブ活動を含む）	自分たちの自主性を生かした部活動を通して、心身を鍛えていると答える生徒が85%以上である。	A	A	・地域展開が叫ばれる中、悩ましいのではないのでしょうか。	生徒の自主性を生かした活動を今後も行い、安全に配慮して実施できるように各部活動で体制を整える。中高との連携ができる部活動は、中高と交流を図っていく中高部活動が両方ある部は、一緒に活動する時間を設定をし、3年生の進路選択に役立てるようにするとともに、6年続けていけるような環境に改善していく。	
V 安全教育	危険を予測し、安全な行動をとれる生徒の育成	通学や学校生活その他の日常生活において、危険を予測し常に安全な行動を心掛けていると答える生徒が90%以上である。	A	A		安全委員会を中心とした「デジタル危険マップ」の作成や、交通安全宣言の振り返り等活動を、来年度も継続していきたい。今年度の取り組みを継続していくとともに、安全委員会の主体的な活動も模索していく。	
VI キャリア教育	変化の激しい社会を生き抜く汎用的能力の育成	授業や学校行事、委員会活動などを通して、企画力やプレゼン力、コミュニケーションスキルなど、社会に出て必要となる能力の習得を意識していると答える生徒が85%以上である。	A	A	・主体性は大切だなとつくづく感じます。	授業や学校行事、委員会活動などに主体的に取り組むことで、基礎的・汎用的能力が高まることは確かだ。また、アウトプットの場面が大切であり、そこで評価されることが自己有用感の向上に必須である。今後も生徒主体の学習活動を構築していきたい。	
	自分の将来を考え、夢や希望をもつ生徒の育成	授業や学校行事を通して、自分の将来について考えていると答える生徒が85%以上である。	A	A		引き続き、様々な行事・体験を通して、自己の進路に関する興味関心を高めるよう指導の工夫を行っていく。また、社会や時代に合った内容であるかを検討しながら、生徒が興味感心をもてるよう選定する。	
VII 組織運営	学校教育目標の具現化に向けた協働	教職員間のコミュニケーションを図りながら、学校教育目標の具現化に向けて協働し、チームとして取り組んでいると答える教職員85%以上である。	A	A	・様々な特色を打ち出し、取組を行い、このような高い数値・達成度、先生方の努力の賜物だと思います。 ・チームワークと一体感大切ですね、うまく醸成されていると感じます。	対面でのコミュニケーションや校務支援システムやGoogle Workspece等を使う非対面コミュニケーションなど、いろいろな方法で教職員間のコミュニケーションを図りながら、時代とともに、少しずつ変化している生徒や社会の実態を踏まえ、チームで日々の教育活動に取り組んでいく。	
	本校の在り方や使命の共通理解	本校の在り方や使命についてを共通理解していると答える教職員が85%以上である。	A	A		本校の在り方や使命について、年度初めの理念研修を丁寧に行う必要がある。また、中高合同研修会等を通して、市立太田高校と市立太田としての在り方を再確認していく。	
	中高一貫教育の推進	中高一貫教育推進委員会を軸に高校との連携を一層推進していると答える教職員が80%以上である。	A	A	・100%を目指してください。	中学、高校の立場の違いや文化を理解し、お互いの立場を考慮しつつ、建設的な意見交流を行うことが肝要である。チーム市立太田として、中学校、高等学校の職員で同じ目標を目指して活動できるように、中高一貫教育推進委員会で共通理解を深めていく	
	規律確保・働き方改革	規律確保行動計画を基に服務規律の確保に努めていると答える教職員が90%以上である。	B	A	・100%を目指してください。	服務に関しては今後も身近な事例を取り上げ、自分事として考える研修をしていく。働き方改革については、行事の見直しや業務の適正化を考えていく。	